

新組織の設置について

- ①岡山大学研究・イノベーション共創機構
- ②岡山大学腸健康科学研究センター

国立大学法人岡山大学 学長
那須 保友

副理事(研究・産学共創総括担当)・副学長(学事担当)・URA
研究・イノベーション共創機構 副機構長
佐藤 法仁

腸健康科学研究センター 副センター長・教授
三好 伸一

岡山大学研究・イノベーション共創機構

1. 岡山大学研究・イノベーション共創機構

研究・イノベーション活動などを担当していた「研究推進機構」、と地域貢献・活動などを担当していた「地域総合研究センター(AGORA)」を廃止し、2024年4月から「研究・イノベーション共創機構」を新設。

1. なぜ、研究推進機構とAGORAを廃止して、新機構を新設したのか？

- ①研究とイノベーション、地域共創の担当が縦割りとなっていたため、スムーズで密な連携が不十分であった。
(例: 研究推進機構は研究部門、AGORAは総務部門)
- ②スタートアップ・ベンチャーを担当する専門部署が明確に設置されていなかった。
(例: プロジェクトベースでのベンチャー支援部門しかなかった)
- ③教員部門と事務部門が別々に機能しており、レポートラインが混線していた。
(例: 教員は研究推進機構、AGORA。事務部門は研究協力部、総務・企画部)
- ④研究・イノベーション、そして共創活動から社会変革を興す総司令塔が必要。
(例: 文部科学省「地域中核・特色ある研究強化促進事業(J-PEAKS)」等との連携)

等々

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択～地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学: 岡山大学の実現を加速とともに世界に誇れる我が国の研究大学の山脈を築く～
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12723.html



1. 岡山大学研究・イノベーション共創機構

2. 新機構はどのように変わったのか？

①地域共創の担当を研究部門へ移管し、研究・イノベーション・地域共創を**一括管理**。
(旧AGORAは、新機構の地域共創本部として配置)

②スタートアップ・ベンチャーの**専門部署を明確にし、本部長を配置**。
(新機構のスタートアップ・ベンチャー創出本部を新設)

「教員>事務職員」という
従来の意識を排除

③教員と事務職員が“真”にともに活動する**教職協働を実現**するため、新機構内に教員と事務職員を配置。さらに**事務職員の「高度化」**を図るため、マネジメント職に登用。
(筆頭副機構長は事務部長が務める。副本部長も事務職員が務める)

「とりあえず教員を参加させる」
という考えを排除

④教員の**教育研究時間の確保を優先**するため、従来、教員が任命されていた**部会を全廃**。

⑤研究力強化、イノベーション創出及び社会共創推進の総司令塔として、**学長がトップ**を務め、かつ**業務を分掌された副理事らがマネジメントするシンプル**なレポートラインを実現し、迅速に変化できる組織に。

しっかりと「分掌」させることで、責任を持たせ、かつ高度マネジメント人材を育成

岡山大学内のみならず、我が国の大学組織において先導的な取り組みを実施！

1. 岡山大学研究・イノベーション共創機構

学長が**トップ**を務め、その業務を副機構長が**分掌**することで**高度かつ、迅速なマネジメント**を実施。さらに筆頭副機構長は教員ではなく**事務の高度化**の点から事務職員が指揮を執る

機構長
学長 那須保友



副機構長
筆頭副機構長 原田大作
副機構長 佐藤法仁
副機構長 窪木拓男
副機構長 遊佐 徹
副機構長 三村 聡
副機構長 林 靖彦



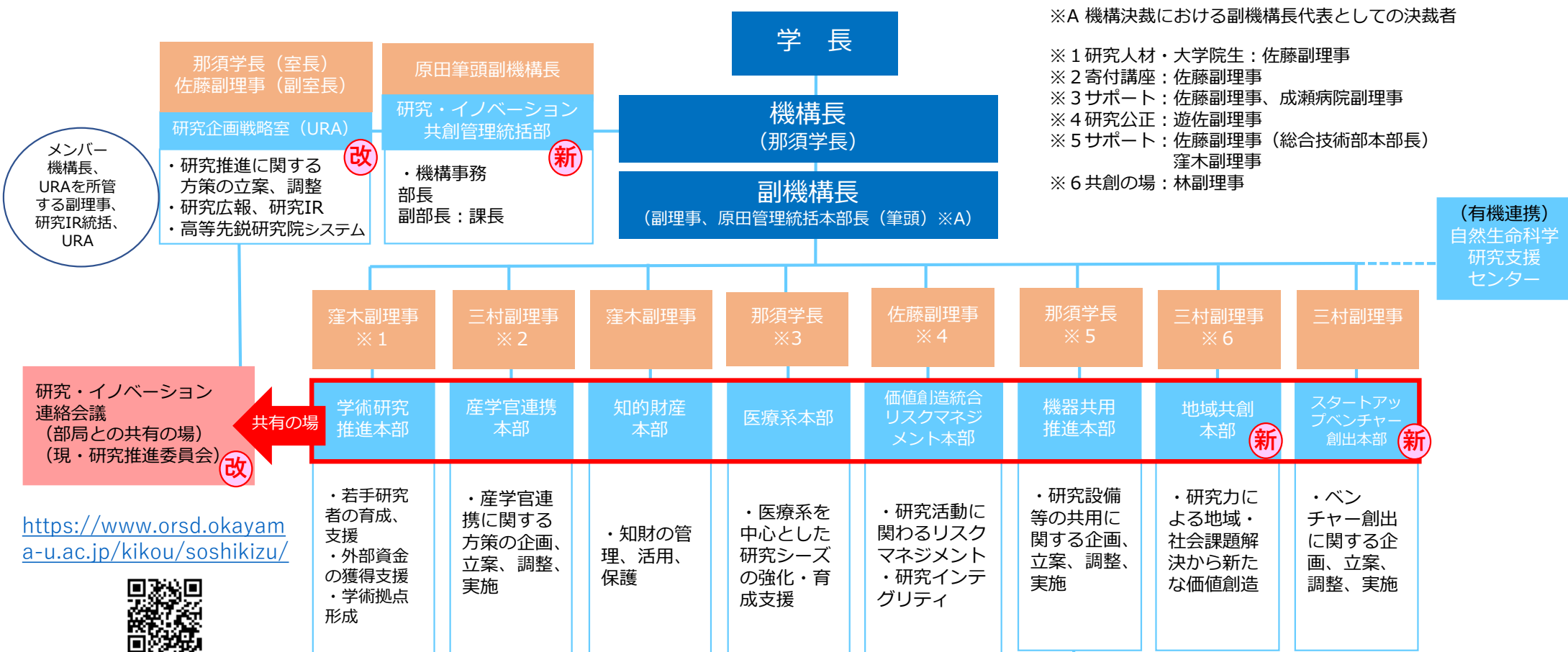
原田大作 佐藤法仁 窪木拓男 遊佐 徹 三村 聡 林 靖彦

他大学・研究機関では、当たり前のように「教員」が就任するポストを事務職員が担う。こういう事、他大学・研究機関ではなかなかできないことです。

岡山大学研究・イノベーション共創機構：岡山大学の研究力強化、イノベーション創出及び社会共創推進の総司令塔として <https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/kikou/aisatsu/>



1. 岡山大学研究・イノベーション共創機構



新機構始動のみで「完了」ではなく、本年度の運用の中で新たな課題等を洗い出し「最適化」を実施。検討の繰り返しで前に進まないを廃し、まず実施して最適化する

岡山大学腸健康科学研究センター

2. 岡山大学腸健康科学研究センター

2024年4月に岡山大学の全学センターとして「**腸健康科学研究センター**」を設置しました。

腸疾患は罹患率の最も高い疾病の一つであり、全世界では下痢症などの急性腸疾患によってエイズやマラリアを上回る150万人が死亡しています。一方、わが国では潰瘍性大腸炎などの慢性腸疾患が増加しています。

このような社会情勢を鑑み、岡山大学の研究マネジメント体制のもと、多分野統合型の研究体制・組織を構築し、人(患者と健常者)のデータを利活用した網羅的な腸研究を推進し、社会実装へ繋げ、腸と人の健康増進に貢献することを目指します。

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」(実施主体:日本学術振興会)では、ウェルビーイング社会の実現、メディカル・イノベーションによる社会変革などを戦略的に実施しており、**腸健康科学研究センターもJ-PEAKSの取り組みの一翼を担う重要なセンター**です。



成瀬恵治センター長

副理事(新医療研究拠点担当)
大学院医歯薬学総合研究科長
教授

岡山大学腸健康科学研究センターの看板除幕式を開催
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13009.html



2. 岡山大学腸健康科学研究センター

設置の背景・必要性

- 腸疾患（がんを除く）は罹患率の高い疾病の一つであり、途上国では**急性腸疾患**の蔓延・流行が続いており、2019年の死亡数は150万人である
- わが国では潰瘍性大腸炎やクローン病などの**慢性腸疾患**が増加しており、患者数は潰瘍性大腸炎22万人、クローン病7万人である
- 途上国では未だに**発生要因が不明の急性腸疾患例**が数多く存在する
- 腸管や口腔の**マイクロバイオームの人の健康や疾患への寄与**が示唆されている

○慢性腸疾患には宿主要因、急性腸疾患には環境要因が深く関わっているが、それらが互いに交叉しているため、**人（患者や健常者）の腸に関する研究リソースを統合・体系化し、腸疾患の予防と腸の健康増進**、ひいては**人の健康増進を推進する統合的な研究組織**を整備する必要がある

○若手研究者などに研修やインターンシッププログラムを実施し、**次世代の腸研究者の育成**、および**腸研究プラットフォームの構築**を図る必要がある（**若手研究者など実践の場の構築**）

これまでの実績

- ◎急性腸疾患を研究する「岡山大学インド感染症共同研究センター」の設置（インド 国コルカタ市）
- ◎岡山大学病院に慢性腸疾患を専門とする「炎症性疾患センター」の設置
- ◎食品機能微生物講座（寄付講座）の開設



腸健康科学研究センターの新設（2024年度）



全学の研究マネジメント体制のもと、**多分野統合型の研究体制・組織を構築し、人（患者と健常者）のデータを利活用した網羅的な腸研究を推進し、社会実装へ繋げ、腸と人の健康増進に貢献**

2. 岡山大学腸健康科学研究センター

- 腸の健康や疾患の**研究リソースを統合**して、炎症性腸疾患センター、インド感染症共同研究センター、および両センターが収集している**人（患者と健常者）に関する情報・データを利活用**する統括的な研究組織を整備する
- 岡山大学病院や関連産業界と連携し、医薬品のシーズ開発など、**社会実装を見据えた目的意識の高い研究組織を構築**する
- **総括研究管理部門の下に**、4つの活動ユニットを設置し、腸に関する研究を一体的に実施することにより、**腸疾患の予防と腸の健康増進**、ひいては**人の健康増進**に資する研究を網羅的に推進する

腸健康科学研究センター

● 総括研究管理部門

研究の俯瞰的な管理、専任教員の適切な研究ユニットへの配置

教授1人（兼任）、准教授1人（専任）

※急性疾患と慢性疾患の網羅的研究

助教1人（専任）

※多分野統合によるデータ活用等

研究1. 慢性腸疾患に関する研究

「岡山大学病院炎症性腸疾患センター」と連携

○ 炎症性腸疾患研究ユニット

教授1人、准教授1人、助教1人（兼任）

○ マイクロバイオーム研究ユニット

教授2人（兼任）

研究2. 急性腸疾患に関する研究

「インド感染症共同研究センター」を利活用

「国立コレラおよび腸管感染症研究所」と連携

○ マイクロバイオーム研究ユニット（再掲）

○ 疫学・分子疫学研究ユニット

教授2人、准教授2人、助教1人（兼任）

ポスドク（インド人）2人

○ 動物・環境調査ユニット

教授1人、准教授1人、助教1人（兼任）

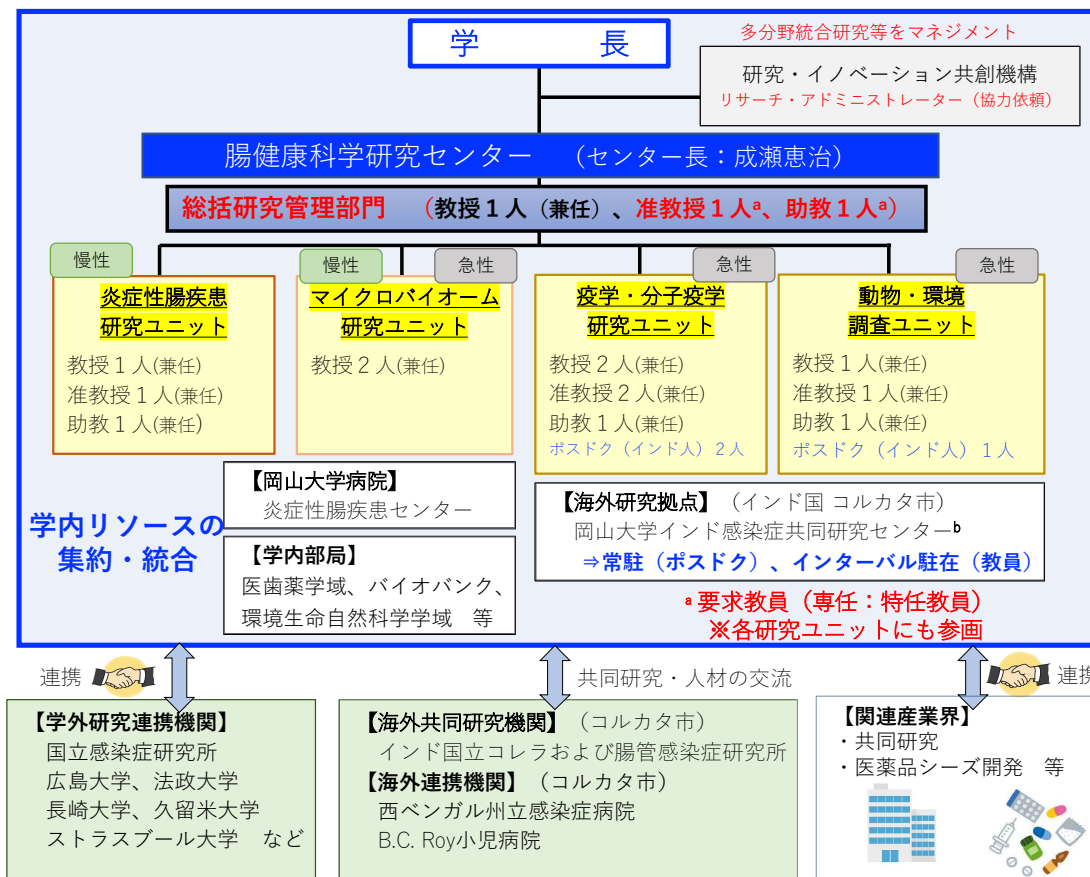
ポスドク（インド人）1人

研究・イノベーション共創機構

リサーチ・アドミニストレーター（URA）と連携

研究センター新設の目的

- 腸に関する研究リソースの統合およびデータ活用による網羅的な腸研究の推進
- 学際的な共同研究体制の強化と国際的な急性腸疾患アウトブレイクへの備え
- 慢性腸疾患および腸内フローラ関連疾患の病態生理の国際的視点からの解明
- 将来的な腸疾患研究や腸健康科学研究の中核を担う若手研究者等の人材育成



^b 文部科学省「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」により2007年に設置



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学病院
OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL
1870

2. 岡山大学腸健康科学研究センター

<参考>

- ・岡山大学インド感染症共同研究センター

<http://www.cid.ccsv.okayama-u.ac.jp/>



- ・日本とインドの叡智を「コレラの母国」に結集させ、世界規模で下痢症感染症の制圧を目指す

https://sdgs.okayama-u.ac.jp/efforts/index.php?c=efforts_view&pk=15



- ・岡山大学がAMED「新興・再興感染症研究基盤創生事業 海外拠点研究領域」に採択され、インド駐在研究者の公募を開始

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9382.html



- ・国立コレラ及び腸管感染症研究所(インド)との共同研究に関する覚書(MOU)を更新

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12788.html



- ・岡山大学病院炎症性腸疾患センター

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index187.html>



- ・岡山大学広報「いちょう並木」Vol.105を発行 ～J-PEAKS採択特別企画 世界に誇れる研究大学の山脈を築く～

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12963.html



採択大学：岡山大学（強化を図る機能：①、②）

参画機関：筑波大学、東京大学、東京工業大学、山梨大学、大阪大学、山口大学、理化学研究所、自然科学研究機構、津山工業高等専門学校

取組内容の概要

地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学～持続可能な社会を実現させる10年構想～

不易流行の大学法人経営 ～社会変革の実現によるマルチステークホルダーのWell-being追及～

①卓越性の飛躍から世界的課題を解決する新技術創出

50年後、100年後のありたい未来：地球と生態系の健康（Planetary Health）の実現に向け、地球外活動も視野にいたれた、新たな知見と新技術開発を推進

高等先鋭研究院 先鋭研究群（研究特区）を選定：（第1弾）
植物・光エネルギー開発拠点

【10年後】「光合成の根幹をなすタンパク質の機構等」「植物の機構・構造・ゲノム情報」解明により、人工光合成の社会実装、クリーンエネルギー生産システムや極限環境下でも安定・高強度を保つ新素材開発を加速化

世界トップの研究者群（知の集積）とリソースの傾注により、研究界のトップサークルを先導し、地球規模の課題解決を図り、国際研究イニシアチブを獲得

自然災害

地球環境激変

気候変動

エネルギー不足

解決

イノベーションを支える強い基盤づくり：研究基盤の整備と高度専門人材の育成

②イノベーション創出によるWell-being社会の実現

【10年後】デジタルの力で人の持つ力を最大限活用し、医療制度と生活様式の変革を導く拠点
Community Health & Human Health 先導大学群の形成

DXを軸に産学官連携により誰一人取り残されないコミュニティを創生（国家戦略特区：デジタル田園健康特区を活用し、中山間地域の課題解決の全国展開）

規制緩和

革新的新医療技術

暮らし改革

新価値・新産業創出
スタートアップの舞台

共生型連合体（国家戦略特区関連大学）で取組を加速・波及
※筑波大学・山梨大学・大阪大学・岡山大学の連携で事業を加速

高齢者の孤立 孤獨サービス
買い物支援見守りサービス
移動支援
高齢対応
EIS DATA
データ基盤連携（健康データを活用）

医療分野からALL岡大の総合知へ
研究開発から人材育成へ
岡山から全国自治体へそして世界へ
課題解決の横展開（シナジー効果）

③イノベーション創出の知と技のメッカとなる研究基盤整備（研究力強化・産業振興拠点）

- 先端分析計測設備・基盤設備の充実及び共用化の推進
 - クライオ電顕連携中四国NWを構築
 - 理研SPRing-8のリモートアクセスステーション設置
 - 最先端設備の整備により大規模実験の事前実験拠点
 - 基盤設備の共用化促進（産業界の利用促進）
 - コアファシリティーポータルによる研究設備のワンストップ利用
 - 事務処理DX化による業務削減
- 総合技術部・技術職員の高度化
 - TCカレッジの受講によるテクニカルコンダクター(TC)認定者輩出促進（ALL-JAPANで技術人材の高度化・関係機関、企業等との頭脳循環）
 - 博士人材の積極登用（大学院修学支援制度による博士号取得促進）
 - プロジェクトマネジメント国際資格（PMP）取得促進

④研究界の国際トップサークルを先導する研究者と知識を活用し社会を変革するナレッジワーカーの育成・輩出

- 複線型人事制度（複数キャリア）
- 研究マネジメント人材認定制度
- 事務職員の機能分化と高度化（博士号取得修学支援制度）
- 教員の機能分化と全体最適
- スーパーPI制度（優秀な若手研究者支援）
- 特区卓越研究者制度
- シニア・ミドルトップ研究者制度

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）

岡山大学の取り組み図



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



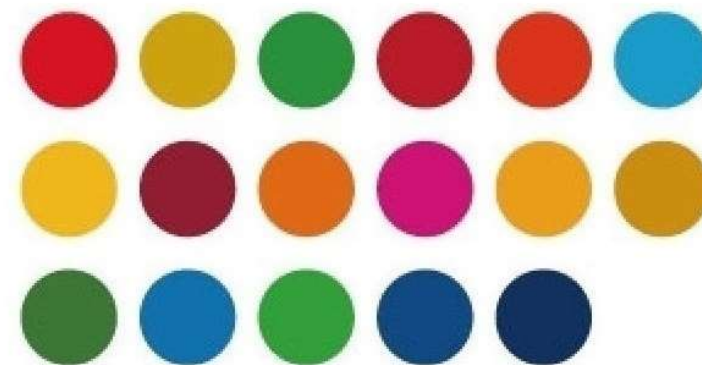
地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）



国立大学法人岡山大学
第15代学長(第5代法人の長)
那須 保友

地域中核・特色ある研究大学 岡山大学が拓く今と未来

OKAYAMA
UNIVERSITY
×
SDGs



私たちは大学が地域と地球の未来を共創し、世界を変革させ、
持続可能な社会を実現させる“力”があることを信じています

【研究・イノベーション共創機構に関する件】

岡山大学研究・イノベーション共創機構
研究・イノベーション共創管理統括部

TEL: 086-251-7115

E-mail: innovation@adm.okayama-u.ac.jp

【腸健康科学研究センターに関する件】

岡山大学腸健康科学研究センター 副センター長
学術研究院医歯薬学域(薬学系) 教授 三好伸一

TEL: 086-251-7966

E-mail: miyos-s@cc.okayama-u.ac.jp